

職業リハ学会通信

NO.138 2014年 6月発行

日本職業リハビリテーション学会 第42回(岩手)

岩手でお待ちしています。

会期:2014年8月28日(木)、29日(金)

会場:岩手県立大学(岩手県滝沢市菓子 152-52)

学会大会

第42回大会に向けて、開催地を含む岩手県の実行委員会メンバーにて、準備を進めています。メインテーマは、「多様なニーズにこたえる職業リハビリテーション」です。都市部とは異なり地方では、職業リハビリテーションサービスへのニーズにはどのようなものがあり、それにいかにこたえていくかについて、大会をとおして考えていきます。

ニーズの主体には、主に、障害者、事業主および機関がありますが、このうち障害者のニーズをとらえる視点として、国際生活機能分類(ICF)の、生活機能と障害(心身機能・身体構造、活動、参加)および背景因子(環境因子、個人因子)が挙げられます。このうち、参加には、就職しやすさや、離職しやすさが、環境因子には、労働市場の豊かさや、障害者雇用に対する人々の態度が例として挙げられ、これらの状況に関連したニーズと、地域特性との関係を考えることで、地方における職業リハビリテーションサービスの共通点を探っていきたいと考えております。

大会初日の基調講演は、岩手県の社会福祉法人江刺寿生会就労継続支援B型事業所ワークセンターわかくさ施設長の久保田博氏より「地域で暮らす、地域で働く、地元でつなぐ職業リハビリテーション」と題する講演をいただきます。同氏からは、障害者が地域で生活し、就労に従事するために

は、何が大切かについて、豊かな実践経験をもとにお話いただける予定です。大会2日目のシンポジウムでは、「地方の特性に応じた職業リハビリテーション実践—多様なニーズにこたえるために—」をテーマに、障害者を雇用する企業の管理者、職業リハビリテーション機関と精神障害者の支援機関の支援者、およびリハビリテーションサービスの利用を経て現在就労中の障害当事者をお招きし、実行委員の浅野文博氏(いわてリハビリテーションセンター)のコーディネートにより、職業リハビリテーションサービスを提供する支援者には、その地方の特性を生かし、障害者のストレングスを活用した、いかなる支援が求められるかについて議論をしていきます。

研究発表(ポスター発表と口頭発表)には、既に多くのエントリーをいただき、充実した発表、報告および議論が期待されます。従来はなかった学会主催ワークショップでは、平成28年4月の障害者差別解消法の施行を前に、障害者雇用における差別禁止と合理的配慮のあり方について考えていきます。さらに、自主ワークショップは、いずれも新しい視点のテーマでエントリーをいただいております。

平成26年1月に、「障害者の権利に関する条約」の批准に至り、障害者の権利の実現に向けた取り組みが国内で一層強化されるなか、改めて地方において、働くことおよび